預言的文書の解釈



2026年11月21日　第8課

“そして、モーセとすべての預言者から始めて、聖書全体にわたり、ご自分について書かれていることを説明された。」
（ルカ24：27　新共同訳）



「こう言って、
モーセやすべての
預言者からはじめて、
聖書全体にわたり、
ご自身について
しるしてある事どもを、
説きあかされた。」
（ルカ24：27口語訳）



2026年第8課11月21日
預言的文書の解釈

エマオへの道で、イエスは二人の弟子たちに聖書の教えを説かれました。その内容すべては明らかではありませんが、弟子たちの心を燃え上がらせたあの力強い教えを伝えるために、イエスが用いた方法についてはわかっています。

聖書を学び、そのメッセージを伝えるための最良の方法は何でしょうか？

今週は、聖書のメッセージを真実かつ効果的に伝えることができるよう、聖書を学ぶ上で役立ついくつかの方法を振り返ります。





- 聖書自身が聖書を解釈する
- 歴史的文脈
- 文化的文脈
- 文学的文脈
- 聖書本文の意味
- 聖書の解説

聖書自身が聖書を解釈する

「ツァウ・ラ・ツァウ、ツァウ・ラ・ツァウ／（命令に命令、命令に命令）／カウ・ラ・カウ、カウ・ラ・カウ／（規則に規則、規則に規則）／しばらくはここ、しばらくはあそこ」と／彼らは言う。(イザヤ28:10)

聖書こそが、それに対する最良の解釈者である。



本文の中で解釈されている

- 例えば、ダニエルは、自分が見た獣たちは王国であることを述べて、その幻の意味を説明しています。
- （ダニ 7:3、17）



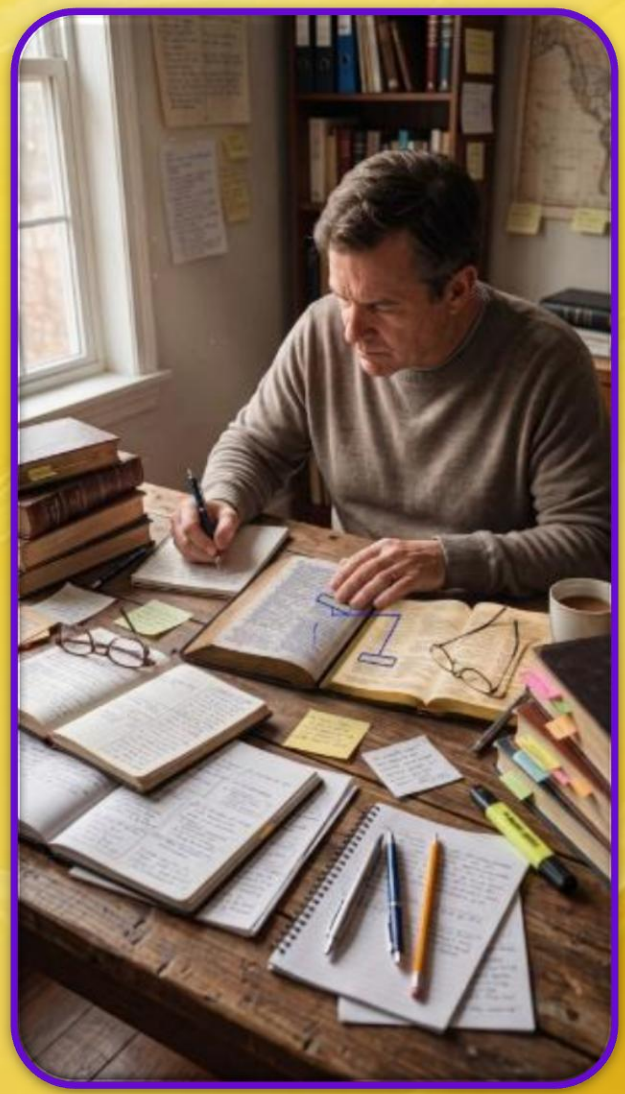
別の預言者によって解釈された

- エズラは、エレミヤの預言にある「70年」の意味を解釈した（エレ 25:11-12；歴下 36:22-23）。



新約聖書は旧約聖書を解釈している

- マタイは、イエスの誕生をイザヤの預言の成就であると解釈した（イザ7:14、マタ1:22-23）。



聖書自身が聖書を解釈する

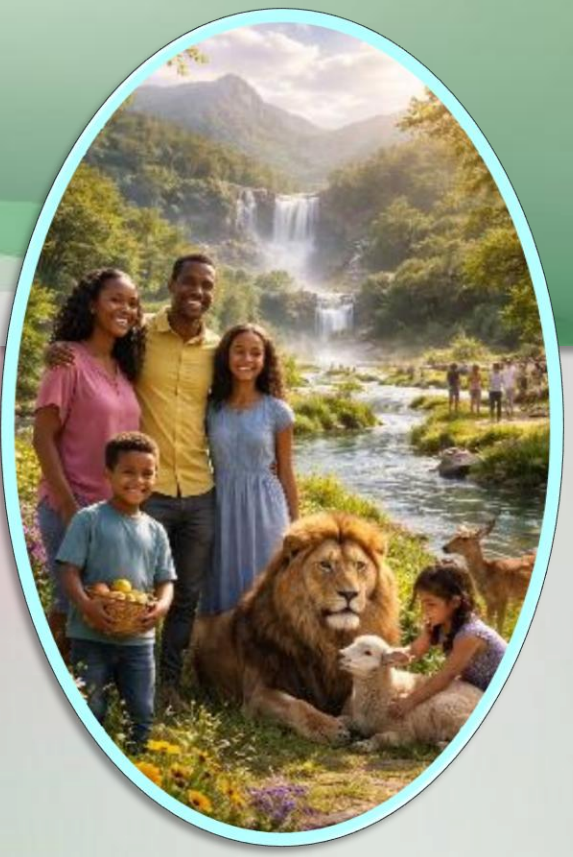
イエスは旧約聖書を解釈しただけでなく、その文字通りの意味を超えて、その真の意味を明らかにしたのです。



旧約聖書	「聞いたことがあるでしょう……」	新約聖書	私はあなたにこう言います…
出 20:13	「殺してはならない」	マタ 5:21-22	怒ったり、誰かを侮辱したりしてはいけません
出 20:14	姦淫をしてはならない	マタ 5:27-28	女性を欲情の目で見ないでください
申 24:1	その女性に離婚証明書を渡してください	マタ 5:31-32	離婚は、不貞行為を理由とする場合にのみ認められる。
レビ19:12	偽証してはならない	マタ 5:33-34	いかなる状況でも汚い 言葉を使ってはいけません
レビ 24:20	目には目を	マタ 5:38-39	悪に抵抗してはならない
レビ 19:18	隣人を愛しなさい	マタ 5:43-44	敵を愛しなさい

聖書を学ぶ際に、自分自身の前提に
気づいていることは、なぜ重要なのですか。
なぜ私たちにとって最も重要な前提は、
聖書を神の言葉として信頼し、
聖書が私たちを評価するのであって、
私たちが聖書を評価するのではないと
受け止めることでなければならない
のでしょうか。

歴史的文脈



そこには、もはや若死にする者も／年老いて長寿を満たさない者もなくなる。
百歳で死ぬ者は若者とされ／百歳に達しない者は呪われた者とされる。
(イザヤ65:20)

新しい地にも、死は存在するのでしょうか。また、罪はあるのでしょうか。（イザ 65:17-20）

新約聖書の終末論的預言に照らして解釈すると、イザヤの預言は衝撃的であるだけでなく、矛盾している（黙 21:1-4）。

イザヤ書の歴史的背景と『ヨハネの黙示録』のそれとは別物であることを理解しなければなりません。イザヤは、イスラエルがメシアを受け入れたときの未来について語りました。しかし、ヨハネの時代には、イスラエルはすでにメシアを拒絶していました。状況は変わっていたのです。

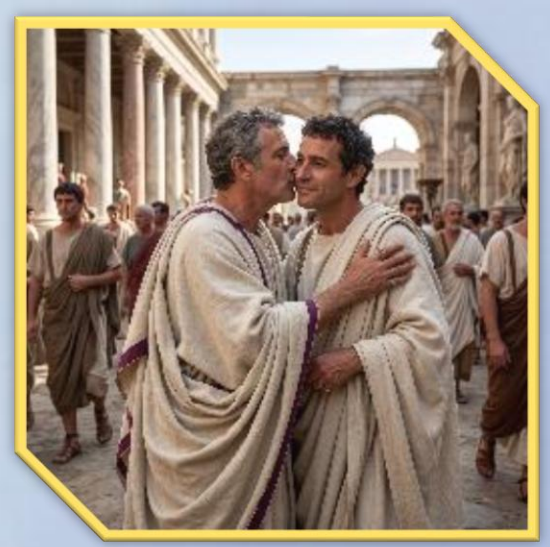
もしイスラエルがメシアを受け入れていたなら、大きな変化が起きていたはずだ。すなわち、地球と人類の贖いと変容が徐々に始まっていたであろう。そこに住む人々は木のように長生きし（イザ 65:22）、そこでは動物たちの攻撃性も和らいでいただろう（イザ 65:25）。



最終的には、死者がよみがえり、死はもはや存在しなくなる（イザ 26:19、25:8）。イザヤの預言のうち、この最後の部分だけが文字通り成就するだろう。なぜなら、それはイスラエルの決断に左右されないからである。

文化的文脈

すべての兄弟があなたがたによろしくと言っています。あなたがたも、聖なる口づけによって互いに挨拶を交わしなさい。　(1 コリント 16:20)





ローマ帝国では、今日の多くの地域と同様、頬にキスをして挨拶を交わすことが一般的でした。そのような文化的背景において、パウロの助言は妥当なものでした（Ｉコリ16:20）。

しかし、例えば日本の文化では、人前での身体的な接触は一般的に避けられるため、たいていの人はそれを見て驚きや違和感、あるいは不快感を抱くことが多い。



アングロ・サクソン式の挨拶



タイの挨拶



チベットの挨拶



ニュージーランドの挨拶

それぞれの文化的背景において、パウロの助言に従うことが人々の反発を招くことを踏まえると、私たちは彼の助言をその文脈に合わせて調整し、その意味を拡張して解釈しなければならない。



日本にいようが、世界のどこにいようが、その文化にふさわしい挨拶を交わし、互いに兄弟のような親愛の情を示しましょう。

Ⅰコリント**16:20**を読んでください。

すべての兄弟があなたがたによろしくと言っています。
あなたがたも、聖なる口づけによって互いに挨拶を交わしなさい。

この聖句を、私たちの時代や文化に
どう適用すればよいのでしょうか。

文学的文脈

言った。「神の子なら、飛び降りたらどうだ。『神があなたのために天使たちに命じると、／あなたの足が石に打ち当たることのないように、／天使たちは手であなたを支える』／と書いてある。」
(マタイ 4:6)



大学の文章指導では「前後の文脈を無視した引用はしてはいけない」という決まりがあります。つまり、文章を文脈から切り離すと本来の意味から外れてしまう可能性が生まれます。それは自分の好みに合わせた主観的な解釈につながり、それは概して正しい聖書の教えからかけ離れたものになってしまうのです。

聖書本文の文脈とは何でしょうか。

直前の文脈とは、その箇所の前後の節を指します。より広い文脈とは、その箇所が含まれる章のことです。さらに、その箇所が掲載されている書物全体を考慮することで、文脈を広げることができます。



詩91：11～12は、外部からの危険に対する神の守りについて語っています。サタンはこの箇所を文脈から切り離し、不完全な形で引用することで、この聖句を口実に、イエスに意図的に危険に身をさらさせようとしました（マタ4：6）。



「誤った教理や非キリスト教的習慣を支持するために、聖書の前後関係を考えずに一節の半分だけを引き離して引用する人々がいるが、その残りの半分を見れば、全く反対の意味になることもある。彼らは、自分の肉の欲をほしいままにするために、へびのような狡猾さで、曲解された無関係ないくつかの聖句のかげに、自分の立場を守るのである。このようにして、神のみ言葉を故意に曲解する者が多い。他方、聖書の型や象徴について想像をたくましくする者もある。そのような人々は、聖書が聖書自らの解釈をしているその証言も無視して、思いの　ままに解釈を下し、自分たちの臆測を聖書の教えであるかのように説くのである。」

EGホワイト (各時代の大争闘,第３２章６０１頁)

自分の主張が
どれほど正しいものであろうとも、
その主張を立証しようとして、
文章を文脈から切り離して
引用するという誘惑を、
なぜ私たちは避けなければならない
のでしょうか。

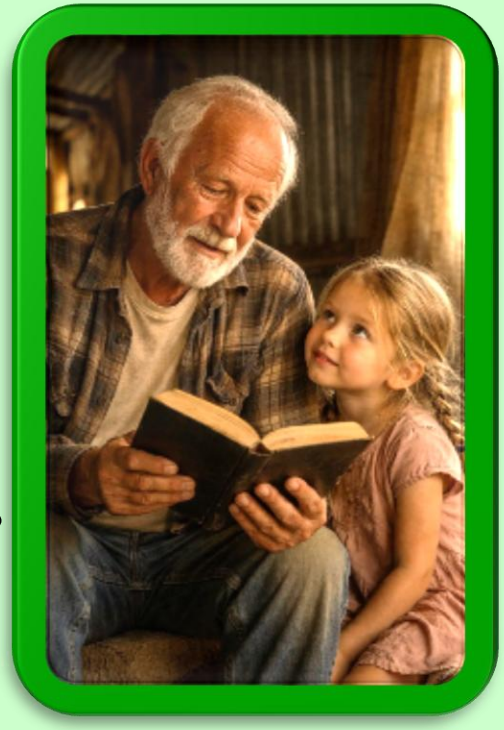
聖書本文の意味

イエスが、「律法には何と書いてあるか。あなたはそれをどう読んでいるか」
と言われると、(ルカ 10:26)



すべてのクリスチャンは、自ら聖書を理解すべきです。聖書は、すべての人が救いの道を理解できるほど明快であると同時に、最も聡明な人々をも絶えず挑み続けるほど複雑でもあります。聖書は、決して尽きることのない、救いに関する知識の尽きることのない宝庫なのです。

しかし、聖書の本文を正しく解釈するには、必ず一定のルールに従わなければならない。



私たちは、本文の言葉を（可能であれば、原語やさまざまな翻訳版を用いて）理解しなければならない。

文章のあらゆる文脈（歴史的、文化的、文学的）を尊重すること

類似の箇所（福音書など）や、同じ主題を扱っている箇所と比較する

最終的な解釈は、聖書の他の箇所が教えている内容と一致していなければなりません。

何かを理解できずにひどく悩んでいたのに、
説明されてわかった経験は、
今はまだ理解できない神の言葉について、
いかに神を信頼する助けとなりますか。

聖書の解説

そして、モーセとすべての預言者から始めて、聖書全体にわたり、御自分について書かれていることを説明された。(ルカ24:27)



クリスチャンにとって、聖書研究は任意のものではありません。私たちは常に神の御心についての知識を深めようと、聖霊の導きを求めつつ御言葉の研究をしなければなりません（ヨハ16:13）。

さらに、私たちは「あなたがたの内に宿る希望について、尋ねてくる人すべてに、いつでも弁明できるように備えていなければならない」（Ⅰペト3:15）のです。

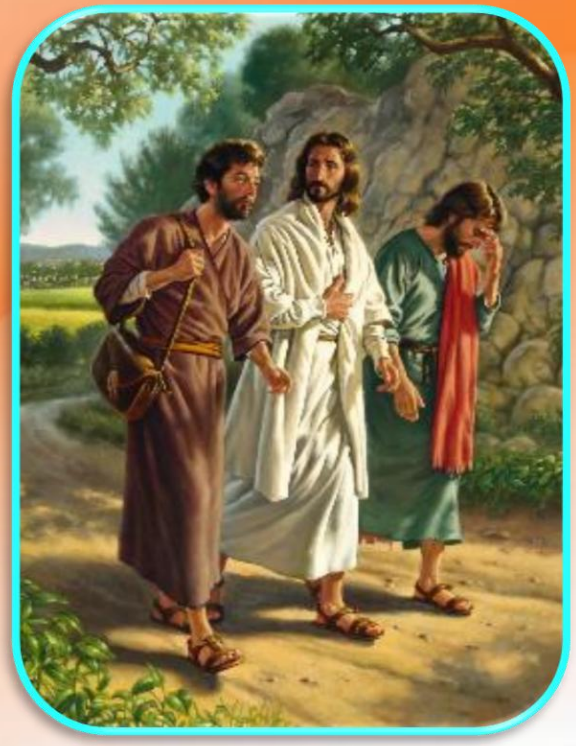


聖書をテーマ別に学ぶことで、聖書研究会を開くにせよ、御言葉を説教するにせよ、他の人々にそのメッセージを伝えるための備えが整います。



また、自分だけでなく他者が学んで得た聖書に関する知識を活かすためには、謙虚な態度を保つことも重要です。

その内容についてはすべては明らかではありませんが、イエスが二人の人々に、聖書のさまざまな箇所に基づいて、ご自身のメシアとしての働きについて聖書研究を行ったことはわかっています（ルカ24:25-27）。



「聖書の一部は、確かにあまりにも明快で誤解の余地がありませんが、その一方で、一目で理解できるほど表面的な意味しか持たない箇所もあります。聖書は聖書と照らし合わせなければなりません。入念な　調査と忍耐強い考察が必要です。そして、そのような研究は豊かな　報いをもたらすでしょう。鉱夫が地表の下に隠された貴金属の鉱脈を発見するように、隠された宝物を探すかのように粘り強く神の御言葉を掘り下げる者は、不注意な探求者の目には隠されている、最も価値ある真理を見出すことになるのです。」

EGホワイト (Our High Calling, July 18)（非公式訳）

時には、聖書を理解する上で
助けが必要なこともあるかもしれませんが、
なぜ私たちは常に、
自らが信じることを自分自身の心の中で
確信していなければならないのでしょうか。

付録：エレン・G・ホワイトの著作の解釈

エレン・G・ホワイトの著作を研究する際には、聖書の本文を研究するときと同じ指針に従わなければなりません。



「自転車や衣服、その他の不必要なものに使われたお金については、説明責任を果たさなければならない」（TM 398）といった発言は、歴史的背景を踏まえて理解されなければならない（1890年の自転車の価格は、数ヶ月分の給料に相当した）。



EGW WRITINGS®
WHITEESTATE.ORG | ELLENWHITE.ORG

文学的な文脈から切り離された個々の段落を用いると、エレンが本来言おうとしていなかったことを言わせたり、彼女が信じていたことや教えていたこととは相反する教義上の主張を擁護させたりすることになってしまう。

結論を出す前に、特定のトピックについて彼女が教えたことをすべて検討しなければならず、ほんの数か所の引用だけに頼ってはいけない。

一方で、私たちは自問しなければならない。「私が聞かされている内容は、本当に彼女が書いたものなのか？」と。引用が本物であり、正確であることを常に確認するようにしましょう（公式サイト https://egwwritings.org/ を活用してください）。

